

New Taxa of the Japanese Woody Plants

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.24517/00055583 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



○ 初島住彦：日本産の新木本植物 Sumihiko Hatusima: New Taxa of the Japanese Woody Plants

1. 最近愛知県の小林元男氏から同地の日比野修氏採集のタラヨウの一型の標本を頂いたので調べた結果タラヨウとモチノキの雑種らしいことがわかった。標本は花のついた雄本で一見タラヨウに似ているが、小枝は細く、葉は短かく、葉縁の鋸歯はごく小さく全縁に近づいている点で異なり、モチノキとは葉が大きく微鋸歯を有する点で異なる。花はタラヨウと区別ないようである。小枝が細く、葉が小さくなり、鋸歯が小さくなっている点はモチノキの影響のように思われる。小林氏も雑種説であるので連名で発表することにした。

タラヨウの雑種としてはセイヨウヒイラギ (*I. aquifolium* L.) との雑種 *I. × hoeneoua* Loes. が知られているが、本種は葉の大きさや、形は今回発見のものに似ているが、葉縁に針状鋸歯が密生している点で異なる。

***Ilex owariensis* Hatusima & M. Kobayashi, hybr. nov., Fig. 1.**

= *Ilex latifolia* Thunb. × *I. integra* Thunb.

A *Ilex latifolia* recedit ramulis gracilioribus, foliis brevioribus, margine obscure denticulato-crenulatis.

Type (♂): Sansyu-daimyoin, Nakamizuno, Seto city, Aichi Prefecture, Japan. OSAMU HIBINO, 6 May, 1995. KANA 198717 (KANA).

Japanese name: Maruba-Tarayo, nov.

2. 最近沖縄の名護市在住の久高康良氏が沖縄の国頭地方の山地で桃色花のケラマツツジを発見されたので新品種として発表することにした。現在久高氏は本品種の増殖につとめている。

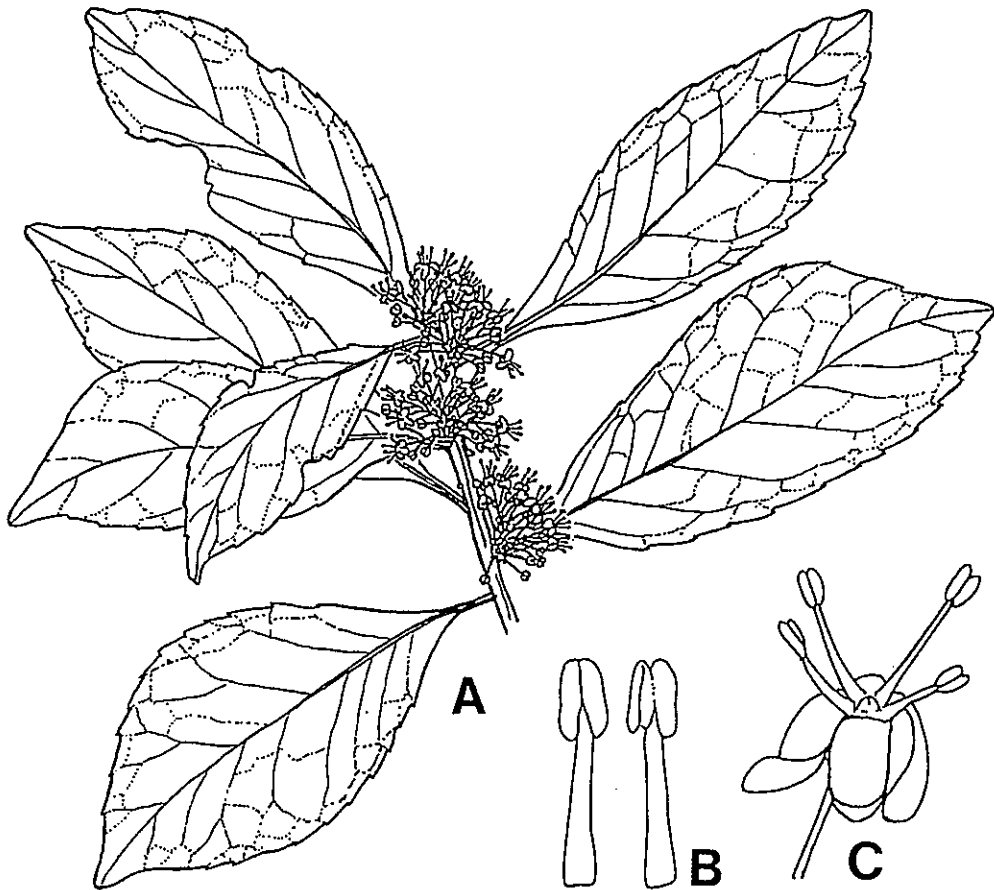


Fig. 1. *Ilex owariensis* Hatus. & M. Kobayashi. A, flowering branchlet (×1/2). B, stamens (×5). C, male flower (×3).



Fig. 2. *Rhododendron scabrum* f. *roseum* Hatus. & Kudaka

***Rhododendron scabrum* D. Don f. *roseum* Hatusima & KUDAKA, f. nov., Fig. 2.**

A typo recedit floribus roseis.

Type : spontaneous in the mountain of Kunigami, Okinawa. Y. KUDAKA, 30 March, 1995.

KANA 198716 (KANA).

Japanese name : Momo-Kerama, nov.

(〒892 鹿児島市吉野町 2635-3 Yoshino-cho 2635-3, Kagoshima 892, Japan)

○ 山中二男：植物おぼえがき (3) Tsugiwo Yamanaka : Miscellaneous Notes on Japanese Plants (3)

6. コウシュンシバ よく栽培されているコウライシバは、*Zoisia tenuifolia* Willd. の学名で、これまで本州の暖地や四国にも自生するとしているものと、九州以南に分布するとみなすことがあった。これによく似たコウシュンシバ *Z. matrella* (L.) Merr. は、しばしばコウライシバと混同されているようである。最近、堀田・黒木 (1994) のくわしい研究で、コウライシバは *Z. pacifica* (Goudswaard) M. Hotta et S. Kuroki となり、両種の区別と日本での分布がはっきりしてきた。それによると、コウライシバもコウシュンシバも、四国以北には見られないことになっている。

そのため、山中 (1978) が高知県の植生と植物相 188 で、コウライシバとしてあげている足摺岬のものをもういちど見直してみると、それはシバでもコウライシバでもないのと、コウシュンシバが四国南部まで分布していることがわかった。このシバの生育地は、足摺岬でも砂地や岩上ではなく、林に近いゆるい斜面で、おなじところにボタンボウフウ、アゼトウナ、ノジギク (アシズリノジギク)、ハマカンゾウなどが生えている。なお、標本 (T. YAMANAKA, Dec. 5, 1994) は T₁ に入れておく。

ご教示いただいた堀田満博士に深謝する。

7. ボタンウキクサ *Pistia stratiotes* L. の学名のこの水草は熱帯にひろく分布し、帰化ともいわれるが日本でも沖縄と八重山に見られる。九州以北で野生状態で越冬するのは知られておらず、水槽などで栽培し、市販していることもある。

これを、高知県南国市岡豊 (おこう) 町の田園地帯の用水路で見えてから、3年以上になる。約 150 m の範囲に生じ、幅 5 m ほどの水面をおおいつくしているところもある。近くの湿地にはジャヤナギがありヨシが群生し、水路にはヨシのほかナガエミクリ、ヒルムシロ、ヌマゼリなどのほか、近年はホテイアオイも多くな